

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	泉北高倉小学校	階数	地下0階 地上4階
建設地	大阪府堺市南区高倉3丁5番1号	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防風	平均居住人員	390 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年9月1日
敷地面積	27,465 m ²	作成者	阪野壮登
建築面積	2,949 m ²	確認日	2013年9月1日
延床面積	6,009 m ²	確認者	阪野壮登

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 75%
④上記+ 75%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物を敷地北側にまとめて配置することで、まとまった広さの敷地内空地を確保。 ・ 北校舎は敷地境界に近い低層のヴォリュームとして計画、周辺環境に配慮する。 ・ 南校舎と北校舎の間に大きな中庭を設け、通風と採光を考慮し、居室の環境向上に努める。 	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい学習環境となるように、教室の窓をできるだけ大きくとる。 ・ 窓には遮熱フィルムを計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築基準法に定められている25%増の耐震強度を確保。 ・ 階高3.8m、天井高さ3mのゆとりの空間を計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地東側の道路に面してサクラを植え、周辺の景観に寄与。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> ・ PAL値の基準値320に対し255.4とする。 ・ 太陽光発電パネルを設置し、環境負荷低減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 壁のGL工法、OAフロアにより分別可能性と再利用性の向上をはかる。 ・ 使用する接着剤をF☆☆☆☆以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物入口に近い駐輪場の配置とし利便性を向上、敷地入口に近い駐車場とし、人と車の動線の交錯を最小限とした安全な配置計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	泉北高倉小学校	BEE	BEEランク
	建設地	大阪府堺市南区高倉3丁5番1号	1.2	B+
	主用途/延床面積	学校 / 6,009.00 m ²		

2. 重点項目への取組み

重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	
省エネ対策	3	
みどり・ヒートアイランド対策	2	
安全快適な暮らし	4	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.9	4
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	1.0	3
		住居・宿泊部分	0.0	
建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		4.0	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		2.5	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		5.0	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		3.0	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.0	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		2.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	4
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.8	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		3.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		5.0	

4. その他

技術の名称	考慮事項
太陽光発電による自然エネルギーの利用	
特に配慮した事項	